上越／湯檜曽本谷・大倉沢

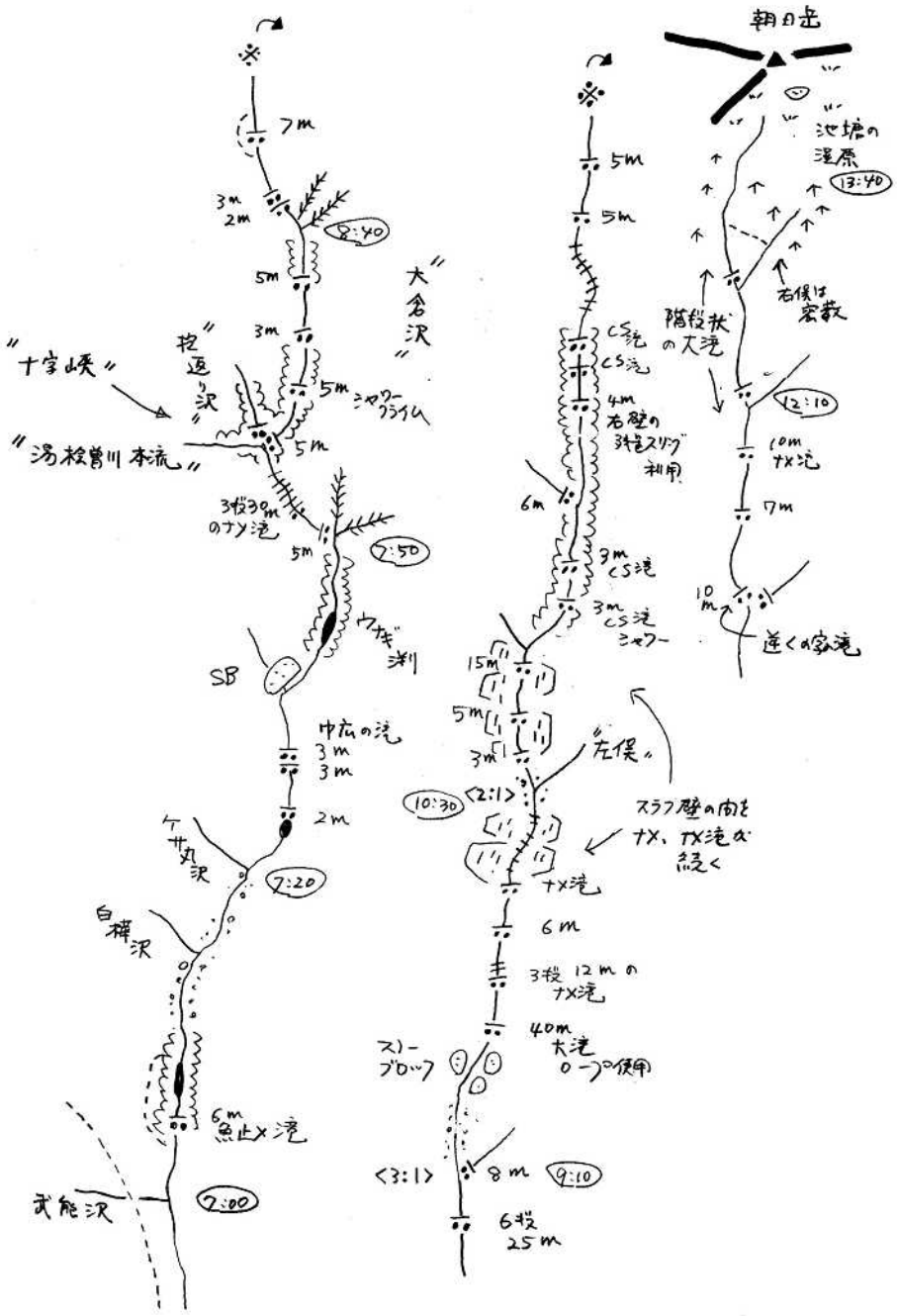
遡行日：09 年 8 月 3 日
メンバー：三井（Ｌ、記録）、志満

8 月に入る、というのに相変わらず雨が降ったり止んだりの天気が続き、梅雨明けの気配もない。
結局、予定していた 2 泊 3 日の「兵衛谷」はまたしても中止、それでも３日目
は何とか山行出来そうな天気予報なので相談した結果、今回の山行となる。

土合の駐車場にテントを張り仮眠。
今回の山行は行程が長いので早朝５時には駐車場を後にする。心配した天気は曇りながら一部晴れ間もでていてまずまず、といったところ。
湯檜曽川沿いの登山道を足早に辿り、武能沢に出たところで沢支度に身を調え、本流に下る。支流の「けさ丸沢」まではつい、この間遡行したばかり、足取りも軽い。
「けさ丸沢」と出合ったところでいよいよ遡行のスタートという感じ。すぐに 3mほどの幅広の滝が二段続いて落ちている。それを越えると右岸の枝流にスノーブリッジ（ＳＢ）が架かり、雪塊が転がっている。この先、厄介なＳＢがなければいいが…。
本流は顕著なゴルジュのトロとなっている。「うなぎ淵」と呼ばれているところだ。盛夏なら泳いで通過しても楽しいが側壁が低いし、まだ日差しも無ければその気にはなれないね。
すぐその先は本流が左に折れ、正面と左岸にルンゼが落ちていて「十字峡」まがいの感じ。右岸壁から越えると３段、30mと称される大ナメ滝が現れる。その正面に「抱返り沢」の大滝が目に入り、一幅の絵のような美景だ。ワクワクしながら歩を進めると本流は左に折れ、左岸からは「大倉沢」が 5mの滝を落として出合っている。まさしくここが「湯檜曽本谷」のハイライト「十字峡」だ。」
「十字峡」と呼ばれるところは幾つかあるが黒部・下ノ廊下のそれと並び代表的存在といっていい。
沢屋だからこそ味わえる天恵の美だろうし、沢屋冥利につきる思いだ。
さて「大倉沢」。出合いの 5mの滝を乗っ越すとゴルジュとなり更に 5mの滝。水流左を登るしかないか。モロ、シャワークライムとなる。幸い、それ程冷たさは感じない。
7mの滝は左から登れそうだがヌメっているのでロープを付けたほうがいいが無理に直登するまでもない。右岸から巻いて先に進む。次々と滝が現れ息つくヒマもない。「いいねぇ。」
6 段 25mの滝はナメ状で適当にルートがとれる。一旦ゴーロ状となり雪塊が散乱している。その雪塊の先に 40mの大滝が堂々と姿を見せる。
瀑水右の岩溝状から取り付き中間辺りまで登る。そこから水流沿いに寄って登るのだが、偵察してみるとホールドはあるも中間がややヌメっている。ここから落ちれば照れ笑いでは済まない。安全を期すに越した事はない。ロープ付け落ち口に上がる。
開放的な空間の中に 3 段 12mのナメ滝が優美な姿を見せると、両岸のスラブ壁の間を水流がサラサラと流れ落ちて

いて、陶然とするような沢の素晴らしさに、言葉を発する事もなくただ歩を進めていく。
再びゴルジュとなりその中に 3mほどのチョックストン滝がある。釜に首まで浸かって左壁に取り付き、ここもモロのシャワークライムで上にでる。
ＣＳ滝が続くがＣＳ滝は乗っ越しに梃子摺る事が多いが逆にそれが楽しい、ともいえる。
逆九の字状の滝を越えると沢幅も狭まり源頭の雰囲気が漂うようになり、間もなくツメの二俣となる。
左俣は結構な落差の滝になっていて水量もやや多い。本来ならこちらを進むべきだろうがここまで来ればどっちを登っても大差なかろう。であれば少しでも稜線に近い方がいいか、と右の枝沢に入ったのだが…。
沢は直に水が涸れ、酷い藪漕ぎとなった。暫くもがいていたが埒があかない。密藪をトラバースして左俣に転進する。水流は側溝のような細い流れになっても途切れず続き、やがて池塘のある湿原に導かれた。
右手の少し高みが朝日岳の頂上だろう。標識らしきものも見える。僅かな登りでその頂きに立った。生憎ガスっていて展望はないが我々の他には誰もいない。考えてみたら今日は平日の月曜日なのだ。いなくて当然、日曜なら大勢のハイカーで溢れていただろう。
沢靴からズックに履き替え、「さあ、下山。」といっても「白毛門」まで縦走しなければならず、まだひと仕事残っている。
曇り空が幸いしたか順調に稜線を辿りまずまずの時間で白毛門のピークに立った。あとは土合に向けて下るだけ。
僕も志満さんもヒザの手術をした同病（？）同士、煽るメンバーもいなければ焦る必要もない訳で、のんびり下って行けばいい。それでもヘッデンのお世話になる前に土合の駐車場に戻り、無事山行を終える。

「大倉沢」はうわさ通りの楽しい沢だった。明るい、広がりを持った沢で、様々な形状の、大小の滝が息つく間もなく現れ、うれしい事にその殆どが直登できる。滝と滝の間は心休まるナメがあり沢登りの楽しさを心行くまで味わう事が出来る。
日帰りの沢としては間違いなく第一級の沢だろう。湯檜曽の本流は百名谷の一つに選定されていて、いい沢だがこの大倉沢も本流にも決してひけをとらない内容を持っていると言っていい。
ただ、日帰りとしてはやや行程が長いので時間配分には注意が必要ではある。



09年8月3日
上越／湯桧曽川・大倉沢